

戦後最初の教育新聞

【復刻版】

教育新聞

(全一卷)

教育新聞社発行

志垣寛主宰

昭和20年12月15日創刊↓22年5月3日〔全71号〕

梶村光郎監修・解題

復刻にあたって

『教育新聞』は、戦後いち早く発行された教育関係の新聞の一つである。主宰者志垣寛が経営する教育新聞社を発行元にして、一九四五（昭和二〇）年一月一五日から『日本教育新聞（大山恵佐主宰）』との合併で終刊となった一九四七（昭和二二）年五月三日まで、週間の新聞として通算七十一号発行された。

本紙は、全国七五万の教育者を読者対象とし、彼らの「思ふ事を思ふがままに討議し、発表する機関」（「創刊の辞」として位置づけられ、同時に「文化國家建設の一翼を担うために」「神秘的世界の廃棄と科学的世界観の確立」、「軍國主義教育の一掃と國際教育の樹立」、「画一教育の打倒と個我の自由発展」、「封建的生活の払拭と生活の合理的向上」、「教育者の地位擁護、待遇の上昇」の実現も意図して創刊された。紙面には、戦後初期の教員の生活や政治意識の実態、教育の民主化や新教育の実践の動向、大日本教育会の解散や教員組合運動の動向、子どもの実態等が幅広く取り上げられている。また、人事や地方教育界の動向、各種研究集会の案内や内容、教育雑誌の紹介等の雑報記事も克明に報道されている。戦後初期の教育状況を豊かに把握するための情報を私たちに伝えてくれる貴重な資料であり、戦後教育史研究にとって欠かせないものの一つであろう。当時、全国中学校長協会、全国中学校長協会、全国青年中学校長協会、日本教育会が本紙を「連絡機関紙」と指示していた事実も、本紙の資料的価値を高めるものである。なお、付録の『日本教育新聞（創刊号）』は戦後最も早く刊行された全日本教員組合の機関紙として貴重な資料なので加えた。

緑蔭書房

収録記事(抜粋)

連載・シリーズ

- ・明治大正昭和自由教育史話(上田庄三郎)
- ・建設途上の民主教室を見る・民主教室巡り社説
- ・時の人物(戦後教育界の指導者を紹介)
- ・アメリカ教育界の人々
- ・アメリカ事情紹介
- ・小西重直博士放談録
- ・児童文化講座・児童文化
- ・新教育回想(志垣寛の教育回想)
- ・五百字評論/紙上討論会 各地教師のオピニオン欄)
- ・地方教育界(各県の教育情報・通信)
- ・教育周波(教育動向・教育ニュース)
- ・議会録音(議会における文教論議の内容)
- ・名城私信・週録・新教育探索行(志垣寛)
- ・組合便り(各地の教員組合のニュース)
- ・適格審査便り(教職員の適格審査の情報)
- ・読者の声(戦後初期の教員の考え方を知る資料)
- ・映画(教育映画を中心に論評)
- ・話題/時評/雞鳴(教育コラム)
- ・教育人消息/消息/教育往来(教育関係者の近況)
- ・民主教育問答(民主教育をわかりやすく解説)
- ・時燈・ながれ(教育時評)
- ・エンマ帳(教育評論)
- ・新刊案内/書評/広告(戦後初期発行の教育誌・新聞・書籍の貴重な資料)
- ・文芸 連載小説愛の鞭(加藤武雄)/新構図(長谷健)/子供記(寺神戸誠一)
- ・ローマ字講座

座談会

- ・教員の政治力獲得に就いて
- ・民主教育建設への途
- ・民主主義と教育建設
- ・新学制を語る座談会
- ・青年教育家座談会
- ・脱線教師は大いに語る
- ・二つの教育法をめぐりて各党代議士は語る

巻頭論文ほか主要記事抜粋

- ・教員組合出発す
- ・国民教育転換の方向(赤井米吉)
- ・天皇制を考究すべし
- ・新日本の教育を如何に建設すべきか?
- ・戦後教育私案(和田英正)
- ・新しき学校の教育形態(城戸幡太郎)
- ・教育原理としてのプラグマティズム(杉森孝次郎)
- ・吾等何を読むべきか(宗像誠也)
- ・ジョン・デューイ(原田実)
- ・思想革新の課題(島為男)
- ・教育会財団論(宗像誠也)
- ・昭和二一年度の国語教科書について(石森延男)
- ・国民学校高等科廃止論(安藤堯雄)
- ・教員組合運動の現状
- ・戦後教育改革案—日本進歩党
- ・全教職員の審査励行
- ・ローマ字教育の採用決定
- ・戦争が蝕んだ童心(小笠原宗美)
- ・第一回教育刷新委員会
- ・日本歴史の使命(宮下三七男)
- ・教育新聞の使命(城戸幡太郎)
- ・新しい学習指導の手引き
- ・教員組合の思ひ出(池田種生)
- ・アメリカの初等学校に於ける民主性に就いて(クリステンセン中尉)
- ・新政同志会の団結

主な執筆者

- 志垣 寛(教育新聞社社長)
- 上田庄三郎(教育新聞社社友)
- 赤井 米吉(明星学園長)
- 小原 国芳(玉川学園長)
- 加藤 武雄
- 城戸幡太郎(文部省教育研修所長)
- 宗像 誠也(大日本教育会調査課長)
- 原田 実(早稲田大学教授)
- 寒川 道夫
- 石森 延男(文部省図書監修官)
- 波多野完治(法政大学教授)
- 竹内 良知(文部省監修官)
- 池田 種生
- 寺神戸誠一(作家)
- 奥田 美穂(教育評論家)
- 小西 重直(興亜工業大学長)
- 佐野 利器(日本教育会会長)
- 山室 たみ(文部省社会教育視学官)
- 石黒 修(国語審議会)
- 金沢 嘉一(東京児童文化連盟主事)
- 長野 長広(文部政務次官)
- 原 種行(文部省科学官)
- 平田 のぶ(子供の村村長)
- 佐竹 直重(早稲田大学教授)
- 宮沢 俊義(東京大学教授)
- 宮下三七男(文部省国史編修官)
- 古田貞之助(民連本部委員)
- 菊地豊三郎(大日本教育会理事長)
- 松原 一彦(新政同志会代表)
- 宮崎 靖(東京児童文化連盟)
- 玖村 敏雄(文部省師範教育課長)
- 岩間 正男(全国教員組合)
- 青木平三郎(東京都青年学校教員組合長)
- 受田 新吉(西日本教組協議会代表)
- 海後 宗臣(東京大学助教授)
- 安藤 堯雄(東京文理大講師)
- 石山 脩平(文部省教科書第一編修課長)

『教育新聞』関係年表

- 1945(昭和20)年
 - 9.15 文部省「新日本建設ノ教育方針」発表
 - 11.1 文部省、公民教育刷新委員会設置
 - 12.1 全日本教員組合(全教)結成
 - 12.2 全教機関紙「日本教育新聞」創刊
 - 12.15 全日本教育者組合(日教)結成
- 1946(昭和21)年
 - 4.7 GHQ、米国教育使節団報告書を発表
 - 5.1 『日本教育新聞』(大山恵佐主宰・日本教育新聞社)創刊
 - 5.7 教職追放の大綱、教職員適格審査規定制定
 - 7.5 公民館の設置普及が始まる
 - 7.26 大日本教育会を日本教育会と改称
 - 8.3 文教再建に関する決議案採択
 - 8.10 教育刷新委員会設置
 - 9.11 文部省に国語審議会を設置
 - 11.1 『国語創造』(志垣寛主宰)創刊
 - 12.22 全日本教員組合協議会結成
- 1947(昭和22)年
 - 1.17 教育制新委員会、六・三制義務教育制度の実施を建議
 - 2.5 文部省、新学制の実施方針発表
 - 3.8 文部省、全日本教員組合協議会と団体協約調印
 - 3.20 文部省、「学習指導要領一般編(試案)」発行
 - 3.21 教育基本法・学校教育法公布
 - 4.1 新学制による小学校・中学校発足
 - 5.3 『教育新聞』、日本教育新聞社の『日本教育新聞』と合併して終刊

〔所属・肩書は当時のもの〕

監修・解説

梶村光郎（琉球大学助教授）

復刻版

教育新聞

教育新聞社発行

志垣寛主宰

収録内容

・全71号〔昭和20年12月15日→22年5月3日刊〕

・解説／記事目録／執筆者索引

・付録Ⅱ「日本教育新聞」創刊号〔昭和20年12月1日刊〕

体裁

全一卷

A4判／上製クロス装／総三三〇頁

定価「本体二六、〇〇〇円＋税」

ISBN4-89774-505-5 C3037 ¥26,000E

〈教育関連書籍のご案内〉

戦前教育科学運動史料

戦前の民間教育研究運動の最後の拠り所となった教育科学研究会の機関誌『教育科学研究』と山下徳治編集の『教材と児童学研究』を収録。総力戦体制下の民間教育運動の課題、状況を知る第一級の史料。

全2巻〔編集復刻版 A5判上製クロス装〕
佐藤広美・高橋智編／解説 本体32,000円

資料日本の戦後教育改革

本資料は『松本喜美子資料』の中核であるIFELの実態資料と神奈川の新教育の実践資料を中心に編纂。昭和20年代から30年代初めの戦後教育改革実施期における各種の解説書、報告書、会議記録など珠玉の史料満載。

全5巻〔編集復刻版 B5判上製クロス装〕
佐藤広美編／解説 本体100,000円

農村教育研究

大西伍一を中心に下中弥三郎、江渡欣嶺、土田杏村など多数の教育実践家に参加した農村教育研究会の『研究雑誌』である。当時の政治・教育思想を知るための不可欠の文獻。原本の所蔵機関はわずかで全巻揃いの所はない。

全3巻・別冊1〔復刻版 A5判上製クロス装〕
小林千枝子監修／解説 本体57,000円

国語創造

志垣寛主宰の本誌は、戦後国語教育の先駆誌であり、戦後初期に推進された民主的な国語教育の状況を伝える貴重なもの。戦後の国語教育史研究に待望の史料。

全2巻・別冊1〔復刻版 A5判上製クロス装〕
梶村光郎監修／解説 本体36,000円

緑蔭書房

173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1
電話03(3579)5444 振替00140-8-56567

特約店